

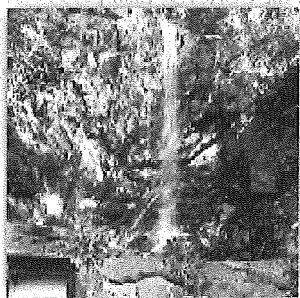
「滝ッズ」大集合！ 第一回 天理市桃尾の滝 A39 楠田行展 (10)

「読み物的な何かを書きましょう。」ということで。ボクは滝が好きなので滝について書きます。

滝の魅力で何でしょうね。経験として、ボクは真夏のもの凄く暑い日に滝に偶然立ち寄ったことがあります。その時の滝の水の冷たさ、爽やかさ、落ちてくる水の音などに、深い感銘を受けてしまいました。今思うに、自然が持つ、厳しさと美しさの両面性を滝に感じ、「滝ッズ」になったのかも知れません。

今回は、奈良県天理市の桃尾(モモノオ)の滝を紹介します。この滝は布留川の上流、桃尾山にあります。落差は23mで春日断層崖の中では最も大きな滝です。(滝の周りの岩ってホント迫力があります。)滝の歴史的背景は、明治に廃絶した桃尾山蓮華王院龍福寺の境内地にあり、中世には真言密教の大道場があったそうです。また、修験道の行場としても知られ、毎年7月18日には夏の安全を護摩焚きなどで祈願する「滝開き」の神事が行われます。桃尾の滝には滝壺がなく、落ちてくる水の量も多過ぎず、少な過ぎずで行をするにも適していると言えるでしょう。ボクも寒い時期に5分くらい行をしたことがあるのですが、夏にやったら気持ちいいだろうなあと思いました。

とまあ、以上の厳しさの次に美しさについて触れると、桃尾の滝にはアクセスし易く、駐車場もあるので気軽さがあります。近所の人たちに親しまれているようです。滝の近くは広場になっており、親近感があるので夏場になると親子連れが滝を味わいに来るのも良く分かります。県から「やまとの水」に選定されているくらいやから水もきれい。また、古くから景勝地としても有名で「布留(フル)の滝」として古今和歌集にも詠まれており、1688(元禄元)年には芭蕉も訪れたそうです。木々も豊富で秋頃には紅葉をバックに観瀑するのもイイかも知れませぬ。



〔桃尾の滝〕
交通:近鉄・JR天理駅
→奈良交通バス菅原行き
で上滝本(15分)
→徒歩(15分)



next collectitve

次回collectiveは
9月末頃を予定しています。
また遊びに来てください。
お待ちしております!

collective(についてのご意見・ご感想・ご要望などをお待ちしています！
collective_mail@hotmail.com まで気軽にメールしてください。

press collective

pick up of the issue

welcome to collective

— ダンス・カルチャーのあったかいところへようこそ —

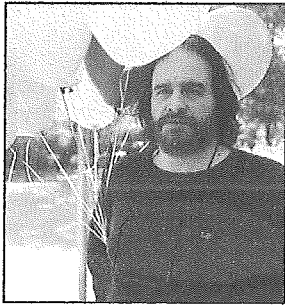
welcome to collective

— ダンス・カルチャーのあったかいところへようこそ —

「つまり、こうしたやり方は、自分がしたいと思うことではなく、自分にできることを可能にするやり方ということです。あるいはまた、自分にできることを手がかりにして自分がしたいと思うことしたり、不可能なことをしようと夢見るのでは全然なく、自分が手にしているものをもとにして自分がしたいと思うことをしたりすることを可能にするやり方ということです。」

..... ジャン=リュック・ゴダール『ゴダール・映画史』

ニューヨークに「THE LOFT」というダンス・パーティがあります。デヴィッド・マンキューソというおじさんがやっているそのパーティは、決して「クラブ・イベント」ではなく、「ホーム・パーティ」だと言われています。そこには、最高のサウンドシステム、デヴィッド・マンキューソによる最高の選曲、ラブリーな風船の飾りつけ、飲み物、食べ物があるそうです。しかしこのインヴィテーション・オンリーのパーティにとっての最大の特徴であり、世界中のダンスミュージック・ファンからの尊敬を集める最大の魅力は、オープンで温かな雰囲気やフレンドリーで多種多様な年齢・



デヴィッド・マンキューソ

人種の客層が生み出すある種のコミュニティの感覚ではないかと思います。

マンキューソはDJですが、レコードをミックスしてつなぐこともなく、音量もそんなに大きくはしないことで有名です。しかしそんなことはまったく問題でなく、「THE LOFT」は、適度な音量で素敵なダンスミュージックを聴いて、楽しく踊って、好きな仲間とリラックスして、食べたり飲んだりおしゃべりしたりするという、本当にシンプルで楽しそうに話を聞くだけで行きたくなってしまふ、まさに「パーティ」なのです。マンキューソはクラブ・ビジネスに向かうことなく、友情と愛と音楽で「THE LOFT」のシーンを作ってきました(注1)。そしてそれは30年(!)を越える長きに渡って続いている伝説のパーティとなっているのです。

僕がこの「collective」のプロジェクトをスタートさせるにあたって思い描いたのは、音楽の持つこうしたあったかい感覚でした。しかしここはニューヨークではなく日本のお大坂で、今は1970年ではなく2004年です。マンキューソと同じことをやる必要はありません。「THE LOFT」のスピリットを僕たちなりに解釈して、今できる範囲で、自分たちのやり方でやってみよう、というのが「collective」です。



自分たちにとって理想のパーティはどんなパーティか、ずっと考えてきました。僕は今仕事をしているので、週末の昼間というのが一番楽しんで遊べます。日曜の昼間なら好きなときに行きたくて好きなときに帰れるし、明るくて開放的な日曜午後には友達とお酒を飲んで、大好きな音楽を聴いて踊ったら絶対楽しいなと考えました。ちょうどクラブの暗い閉塞感にも

「なんだかなあ」と思い始めていたところででした。そしてゆったり過ごせるように過剰な音量はやめようと思っていました。長時間過ごすので、耳を痛めてもイヤですよ。それからぜひとも実現したかったのが、あったかい食事ができること。いつもクラブに行くと、「ここでゴハン食べられたらなあ」と思っていたのです。

心地よい空間と楽しい音楽、「collective」には他に特別なものは何もありません。このパーティでは、主催する側としての自分が楽とか、どうすれば話題になるかとか、そういうことではなく、遊ぶ側としての自分のわがままや要望をシンプルに追求しました。その結果、おのずこの社会にちょうどよくフィットするダンス・パーティのあり方になったのではないかなと思います。そのイメージの象徴が、家のリビングで、みんなで飲み会でもする感覚のパーティ＝「リビングルーム・パーティ」なのです。



だからこのパーティはみんなで作るものであり、一方的に僕らから提供されるものではありません。「こんな風だったらもっといいのに」という意見があればぜひ聞かせてください。僕らの関与できない向こう側で都合よく作られた価値観には拗ね取れない、自分たちのしたいこと、自分たちの楽しみ、自分たちのわがままを発信していきましょう。世界はテレビみたいに見ているだけのものではなく、自分たちで作るものですからね。マンキューソも「THE LOFT」のことをこう言っています。「It was my own way of socially rebelling」(注2)。心を込めて作られたものは、いつだって社会に反抗しています。

...最後はちょっと堅苦しくなりましたが、なにはともあれ、今日一日パーティを楽しみましょう!

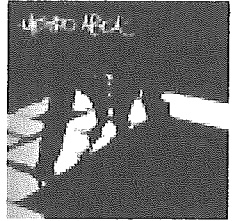
注1 : <http://www.jahsonic.com/DavidMancuso.html>でのインタビューより
注2 : http://www.submitresponse.co.uk/archives/david_mancuso.phpでの

インタビューより

※THE LOFTのウェブサイト <http://www.theloftnyc.com/>

(Kengo Matsui)

[CD] METRO AREA / METRO AREA



NYのおもしろレーベル「エンヴァイロン」の主宰、モーガン・ガイストとその相方、ダルシヤン・ジャスラニのユニット、メトロ・エリア。このCDいいですよ。独特の浮遊感が漂い、美しい音の空間がまた〜と広がって行きます。エレ・ポップ調ディスコなんだけど深みがあるんですね。ダビーなんですけどデスコ、モトーンな音やけど

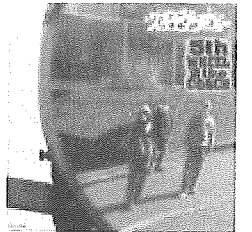
80s系の煌きという一見対極にある要素を見事に絡め上げています。生音もあるから温みもあるし。リスニング、ダンス、ドライブなど様々なシーンで活躍すること請け合い!

この音の多様性はどこから来たのか分析すると、Mr.ガイストの音楽遍歴に隠れているのかも。彼はジョルジオ・モロダーやデベッシュ・モードなどのテクノのプロトタイプ、そしてホアン・アトキンス、カール・クレイグなどデトロイト・テクノにもかなり影響を受けたらしいです。だから3曲目「ミウラ」で往年のディスコバンド、リップス・インクの「ファンキー・タウン」がさりげなくサンプリングされているのも納得、納得!です。

HMV、タワー、amazonでもチェックできるから聴いてみてよ。ボクは好きです。(楠田)

[CD] スチャダラパー

/ 5th WHEEL 2 the COACH



鬱陶しい梅雨の候、みなさまいかがお過ごしでしょうか。梅雨時は雨音に便乗して部屋で聞く音楽のボリュームを上げる私ですが、そんな梅雨が過ぎればよいよ夏。暑さに悶える日々の清涼剤としてオススメの1枚を紹介します。これはぜひとも大きな音で、しかもできれ聴きたいものです。

というわけで、今回紹介するのはスチャダラパーの6thアルバム、『5th WHEEL 2 the COACH』。1995年のリリースです。このアルバムは夏の定番「サマージャム'95」を収録していて、とにかくこの曲だけでも名盤確定のオススメな1枚なのですが、もう1曲私のお気に入り「ULTIMATE BREAKFAST & BEATS」。聴いてもらえばわかるんですが、思いっきりエッセンスを抽出するなら「それでも朝は来る」ってな感じでしょうか。ともあれ、暑い毎日、クーラー漬けでは体を壊すんで、たまには涼しさを工夫して美味しい酒を呑みながら過ごそうという、そんな夏の1日に聴いてみてください。(ITARU.W)